

皆さん、お元気ですか？

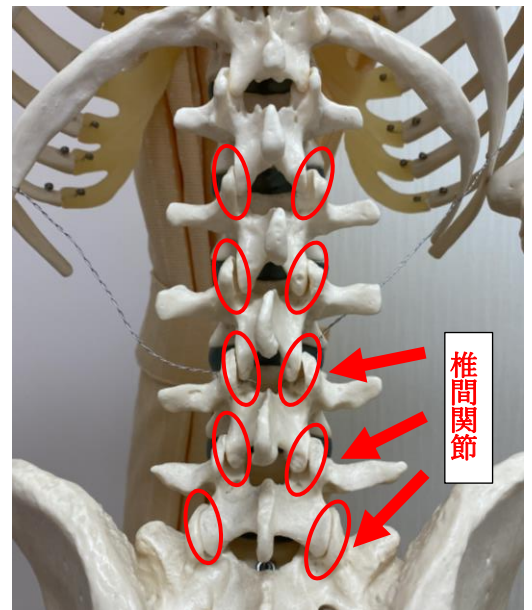
さて、今回は、レントゲンでは原因がわからない腰痛についてお話しします。

急にぎくっと来て強い腰痛が襲ってくることがありますね。ひどいときは、動くたびにぎくっときて、まともに歩けません。また、顔を洗うこともできなくなります。時に救急車のお世話になり、救急外来に運ばれることも……。



多くの方が整形外科に行かれ、レントゲンを撮影しますが、なんと！「異常なし」と診断されます。では、MRIは？なんと！「異常なし」先生からはこう言われます。「たいしたことはないですね。筋肉痛だと思いますよ。」鎮痛薬を出され、電気治療など行います。でもなかなか治らない……。いつまでも続く痛み。つらい日々。いったいどこが悪いんでしょう？

このような痛みのほとんどが「椎間関節痛」です。腰椎には、10個の椎間関節があります。皆さん、思い出してください。腰の骨は何個でしたか？そうです。5個でしたね。その1つ1つの骨が積み木のようにになって腰の脊椎を作りますが、お互い小さな手を出して重なり合っています。それを関節といいます。そもそも、関節とは、手首、肘、膝など曲がる場所を関節と言いますが、腰にもたくさんの関節があり、そこが自由に動くために複雑な動きができるわけです。若いころは、関節もきれいで、すべすべしていますが、歳を取ると、変形してぎしぎしといった感じになります。機械と同じです。錆びるようなものですね。その関節の中には、髪の毛のように細い神経が入り込んでいます。摩擦が大きくなると、その神経に炎症が起きます。それが腰痛の始まりです。



小さな関節の中の細い神経が傷ついたとしても、レントゲンにもMRIにも映りません。なので、原因がわからないということになります。

ペインクリニックでは、診察から椎間関節痛を疑うと、高性能透視装置を使って、正確にその場所に薬を打ちます。もし、その後、痛みが大きく改善したら、あなたの痛みは椎間関節痛だったということになります。もし、ブロック後、変化がなかったら、あなたの痛みは椎間関節痛ではなかったと言うことになります。治療が診断にもつながります。

椎間関節の変形が強い場合は、注射の効果も一時的で、何度も治療を続けていく必要がありますが、若い方で、変形が強くない場合などは、1回のお注射ですっきり治ってしまうこともあります。慢性化すると、何年も痛みの原因になります。

次回は、首の椎間関節痛について述べますね。